

晴れがわ

登場人物

花雨子（はなあめこ） 花家の長女。

夢雨子（ゆめあめこ） 羊人間となった花雨子。

土雨子（つちあめこ） 羊人間となった花雨子。

形（かたち） 花家の長男。雨子の兄。

風野（かぜの） 花家の次男。雨子の弟。

カゼノ（かぜの） 羊人間となった花雨子の息子。

明（あきら） 雨子の婚約者。

村（むら） 風野の恋人。

一場

月面。花雨子と明が立っている。二人の首根っこには機械  
が取り付けられていて、その機械からチューブが一本伸び  
ている。チューブは曲がりくねって、二人の足元の「薄い  
膜発生装置」に繋がっている。そう、二人には今、身体  
の形を沿うようにして「薄い膜」が発生しており、それによ  
って月面でも地球と同じ環境で生きていられるのだ。花雨  
子と明は薄い膜発生装置をちょうど一緒に眺めている。ち  
ょうど、こんなちっぽけな機械で生かされている不思議に  
思いをはせている。この世のものとは思えないほど広がっ  
ている星空の下、いつもとおなじにお互いが隣にいてく  
れる不思議に思いをはせている。花雨子は、どこまでも続  
いている月の砂漠を、自分たちの住んでいた街の、川沿い  
の、二人のお気に入りの散歩道と重ねてうたってみた。無  
理な想像だった。明は、かすががすれの花雨子の歌を聞い  
て、自分のと、花雨子のチューブを薄い膜発生装置から抜  
いた。

花 明日だよ

明 うん

花 せっかち

明 予行練習だよ

花 練習ってそれだけでよ チューブを抜いて終わり

明 うん

花 羊人間になるんだよ

明 なれるといいね

花 なれるよ お月さまの上だもの

明 実感がまだわいてなくて

花 お父さんとお母さんもそうだったって

明 え

花 小さい頃から読んだの お父さんの日記 私たちと  
一緒に 死ぬ前にこうやってお月さまに来て お月さま  
のホテルに泊まって お月さまの海に立ったって お父  
さんとお母さん 明日いなくなることもなんかそっちのけ  
でホテルの味付けに文句を言っていたんだって

明 そう

花 でも死んだんだよ 次の日にきちんと

明 僕たちも きちんと

明は砂をじっと見ている、花雨子は明の表情を見て、目を  
空へそらした。

明 明日死ぬよ

花 地球

明 うん

花 こうやって見ると 地球もきれいだね

明 そうだね

花 あんなに小さいところに私たち住んでいたんだね

明　きれいだね

花　楽しかったね

明　楽しかったね

花　戻そうか

明　え

花　チューブ　だって予行練習でしょ今は

明　うん

花　明くん

明　うん

花　また明日

チューブがうまく接続できない。

明　あれおかしいな

うまく接続できない。

明　ちょっと待ってね

うまく接続できない。

明　あれ

うまく接続できない。

明　ちょっと

うまく接続できない。

明　大丈夫だと思う　砂がかんてるんだよ

花　そう

明　月の砂って大きいんだよ粒々が

花　そう

明　あこつちで試してみるね

接続する穴を変えてみた。

明　あれおかしいな

やっぱり接続できない。

明　え　ちょっと

接続できない。

明　あれ　え待ってねもうすぐだから

接続できない。

明　もう少し

接続できない。

明　もう少し

接続できない。

花 予行練習じゃなくなったね

村 え

明 もう少し

接続できない。

村は、風野の表情から状況を読み取ろうとしたが、いつもと同じ穏やかな風野であった。

明 いや え

接続できない。

二場

村 結婚式まだだよ

明 あれ 待って

月のホテル。風野と村の部屋。風野は窓から外の景色を眺めている。村は、風野の発した一言に言葉を失っているところだった。

村 そういつことって  
風野 結婚式の前に死ぬことにしたんじゃない  
村 え本当に

接続できない。

村 え

風野 知らないけど

明 待って

風野 すごいね お月さんて本当に何もいないんだね

村 いや 風野くん なんて

風野 そうだよ え 俺言ったよね

花 雨子は笑っちゃった。明と思い出がおかしくて。

風野 お月さんて何にもないねって 見てみなよ窓の外

村 いや風野くんその前

風野 雨姉ちゃん結婚式のあと結婚相手と死ぬんだよって

花 明くん

風野 あの

村 明さんはどうなったの

明 うん

村 うん

風野 明さんは生きてるって

花 大丈夫だよ

風野 死んだって

村 え なんて いやいいんだけど生きてていいんだけど  
えお義姉さんは

明 え

村 お義姉さんが

風野 そうだよ

風野 だから死んだって え俺言ったよね雨姉ちゃん結婚式のあと結婚相手と死ぬんだよって

村 え死ぬってというのは死ぬほどさびしくなるんだよって  
ことじゃなくて

風野 うん

村 え死ぬってというのは本当に死ぬって意味なの

風野 えごめん俺ちゃんの言ってること難しいかも

村 え全然難しくないよ 死ぬって心臓がとまるってこと  
って意味

風野 え死ぬって他に何があるの

村 戸籍を消すとか

風野 そんなことしたら犯罪だよ

村 犯罪だよでもそんなこと言ったら死ぬのだって犯罪で  
しょ

風野 えごめん俺ちゃんの言ってること難しいかも

村 え全然難しくないよ 死ぬのは法律に違反してるんじ  
ゃないのって意味

風野 え

村 いや違反してないんだけどね

風野 うん

村 違反してないよ

風野 うん

村 してないけど えごめんね風野くん

風野 え

村 私うかれててごめんね

風野 いやいいよ

村 私ずっとうかれてたよね 初めてお月さんまで来てさ  
お月さんのホテル泊まってさ この部屋天井低いねだと  
か 値段高いわりに素っ気ないねとか私ずっとうかれて  
たよね

風野 いいようかれて

村 だって結婚式だって聞いてたからさ

風野 いいようかれて

村 うかれていいわけじゃないでしょ人が死んでるのに

風野 いいんだっておめでたいことなんだからさ

村 みんなして私のこと貧乏人だって馬鹿にしてたの初め  
てお月さん来た私のこと

風野 俺だって初めてだって

村 風野くんちはお金持ちでしょ

風野 俺んちが金持ちなのと村ちゃんちが貧乏なのは今関  
係ないでしょ

村 私んち貧乏じゃないよ

風野 村ちゃんちは貧乏じゃないんだけどさ

村 え ちゃんと言ってよお義姉さん亡くなるんだったら  
亡くなるんだってさ

風野 村ちゃん

村 はい

風野 あ の 俺もそうだよ

村 え

風野 ちゃんと村ちゃんとおんなじように混乱してるよ今

村 うん

風野 だって俺覚えてないくらい小っちゃい頃にお母さん  
もお父さんも死んで ずっと雨姉ちゃんがお母さんの代  
わりでさ それで電話でばつと「死んだ」って聞かされて  
も俺もどうしたらいいか分かんないよね 俺小っちゃい  
頃からずっと結婚したら死ぬんだよって言われててさ  
俺もすっかりその気になってたつもりだったんだけどさ  
村ちゃん

村 うん

風野 死ぬってなんか違うよね

村 うん

風野はあらためて、窓の外の景色を見た。

風野 お月さんて砂しかないんだね

村 そうだね

風野 もう少しにぎやかだったらな

村 うん

風野 ねえ

村 うん

三場

月面。明と形からチューブが伸びている。チューブは薄い膜発生装置に繋がっている。明は月の地平線を眺めている。形は月面に埋まっている「薄い膜発生装置」をいじっている。

形 ここに砂が詰まっていますね

明 はい

形 ホテルの人が言うには それで雨子のチューブの先っぽも壊れたんじゃないかって

明 すみません何から何まで

形 え

明 ホテルの人に連絡とか僕なんにも出来ないで

形 いいよそんな 昨日の今日じゃ気持ちもどうにもならないでしょ

明 あの 形さん

形 うん

明 すみませんでした

形 明くん

明 はい

形 僕もまだいろいろ整理がつかないんだけど でもとにかく とにかくです 本当にありがとう 雨子のわがまままでこんなお月さんまで来てくれて

明 いえ

形 僕ら兄妹はね ちいちゃな頃に両親を亡くしまして 本当ならお兄ちゃんの僕が支えなきゃいけないかったんだけれど僕はなんかそういうの下手くそだったから 雨子もうまく僕に頼れなかったんだと思う だから明くんのような人に巡り会えて本当に良かった 本当に良かったって言い合ってたんです僕ら あ僕らっていうのは僕の心の中で僕と僕がということなんだけれどなんかこうね あるよね心の中で僕と僕で良かったね雨子 うまくやってるね雨子 そこはもっと大胆に雨子 ね あるよね

明 はい

形 あるよね

明 あると思います

形 でも僕は下手くそだったんだよ だから雨子をうまく支えられないで 小学校の時にあいついじめられていて学校から帰ってくるとすぐに父の日記をめくりながらまるで呪文のように呟くんです いつかお父さんお母さんのようにお月さまに行くんだ お月さまで死んで 羊人間に生まれ変わるんだって 羊人間のことは聞いているよね

明 はい

形 どう思う羊人間のこと

明 え あの

形 どう思うお月さんで生まれ変わるだなんて

明 僕は 雨子の大事にしていたことなら信じたいと思っています

形 そう

明 はい

形 そうかい はは

明 え

形は明の前に右手を差し出す。

形 明くん 握手だ

明 え はい

形 握手をしよう

明 え はい

明は形の右手を握る。形も力強く握り返す。

形 結婚式は出来なかったけれど 僕たちは家族だよ

明 ありがとうございます

形 うれしい

明 うれしいです

形 本当に

明 本当です

形 それなら僕のチューブを外してくれませんか

明 え

明は右手をゆるめた。形はその手をさらに力強く握った。

明 あのとけていいですか

形 まだだよ

明 え

形 家族の手で 薄い膜発生装置から

形 まだよく分からないんだ

明 なんぞ外すんですか

明 でもそろそろチューブつけないと薄い膜剥がれちゃいますよ

形 雨子がどういう状態だったのか知りたいんだ

形 もう少しだから

明 危ないですよ

明 いやもうつけますね

形 少しだけだから 家族だろう

形 まだだって

明 はい

形は月面の、地平線の向こうを見る。満天の星空がきれいなのか面白い映像なのかよく分からない。

明 薄い膜剥がれちゃいますよ

形 薄い膜まだあるよ

明は、薄い膜発生装置から形のチューブを抜く。

明 薄い膜剥がれちゃったら干からびちゃいますよ

明 あのとけますねチューブ

形 まだよく分からないんだよ

明 外しましたけど

形 待ってくれよまだ分かっていないんだ

明 酸素ももう無くなりますよ

形 うん

明 でももう危ないですよ

形 いいんだよ分からないんだから僕は

明 どうですか

形 まだ薄い膜残ってるんだから

明 え形さん何がしたいんですか

形 まだよく分からないな

明 だから薄い膜あるうちにチューブつけないと危ないですよ

形 お義兄さんだよ

明 しばらくは薄い膜も持続しますから

形 いいんだよ明くん

明 お義兄さん何がしたいんですか

形 うん

形 えいんだよ明くん

形 よく分からないんだよ

明 え 形さん

形 明くん

形は月面の、地平線の向こうを見る。遠くに見える山が、遠いのか近いのかよく分からない。

明は形のチューブを薄い膜発生装置に取り付ける。

形 ちょっと明くん

明 あの それはずるいと思います

明は、自分のチューブを薄い膜発生装置から外した。

形 え 明くん

明 お義兄さんは僕を恨んでるんですね 僕が雨子にしたのと同じことをお義兄さんに繰り返させて僕が苦しむところを見たいんですね

形 違うよ誤解だよそれは

明 だったらどうしてこんなことさせたんです

形 薄い膜剥がれちゃうよ

明は自分のチューブの先を持ったまま、薄い膜発生装置から離れる。近づいてくる形をチューブを振り回して威嚇しながら、

明 僕は死ぬためにお月さんに来たんです 昨日も雨子のチューブが壊れた時に僕も死ぬだって思ったんですでも気づいた時には僕のチューブだけ差し込まれていたんです 傍らには雨子の左手があつて雨子の薄い膜はとっくのむかしに剥がれて無くなっていたんです

明は、動かなくなった花雨子の思い出を見て、その場にくずおれた。形は明に寄り添い、明のチューブを薄い膜発生装置に取り付けた。

四場

形 羊人間を信じてるかい

明 え

形 羊人間だよ

明 はい 雨子は僕の心の中で生まれ変わります

形 心の中とかそんなんじゃないよ

明 え

形 羊人間は本当にいるんだ 人間は死んだら本当にこのお月さんの上で生まれ変わるんだよ 地球にいた頃の記憶を携えて 明くんはどうして雨子が結婚式の前に死んだと思う

明 それはチューブが壊れたから

形 人の命を繋ぐものがそんな簡単に壊れるだろうか

明 え

形 雨子が自分で壊したんだよ 結婚式の前に死ぬ為に

明 なんでそんなことを

形 明くんは雨子に会いたいかい 羊人間になった雨子に

明 分かりません

形 分からないんだよ僕も でも雨子は来るよ 羊人間になつて 来るよ

月のホテルの裏の丘。夢雨子が仰向けに寝ている。傍らに土雨子が立って、夢雨子の顔をじっと見ている。二人は、頭にアンテナをつけている。夢雨子は目を開けた。

土 あ

夢 え

土 おはよう 雨子ちゃん

夢 おはよう あれ 死んだ私

土 死んだよ そんなで

夢 うん

土 もう羊人間だよ私たち

夢 あなたも

土 うん

夢 あなたも雨子ちゃん

土 そう

夢 二人になっちゃったの

土 そうよ 私たち二人になっちゃったよ

夢 羊人間てみんなそうなの

土 分かんない 初めてなったから

夢 そうだね

土 とりあえずあなたも私も指は五本ずつあるよ

夢 え

土 よくあるでしょう 一人の人間を部分部分で分けてあ  
なた右手の親指で私右手の人差し指でって

夢 あんまりないと思うよ

土 あなた全部ついてたよ 私全部ある 目とか鼻の穴と  
か

夢 あるよ

土 鼻毛とか

夢 え鼻毛全部あるか分かるの

土 数えて数えて

夢 いいよ

土 あはあは

夢 ちよつと動かないでよ

土 だって本気で数えてるんだもん

夢 えちよつと横になって横になって

土 なんでなんで

夢 光が鼻の穴の中入らないんだよ

土 雨子は心を振り絞って笑った。夢雨子が、もう一人の自

分が私の鼻毛をどうにかしようとしている。土雨子はちよ  
つと必死になってもう一人の自分の邪魔をした。ちよつと  
必死になって笑った。夢雨子は笑おうとしているもう一人  
の自分をちよつと必死になって月の地面に押し付けた。土  
雨子の顔をじつと見つめると、もう一人の自分が手を伸ば  
して私の顔を指先でシ、シ、撫でた。

土 なんかな全然違うね

夢 え

土 顔とか 生きてた頃こんなだった

夢 あなたも違うよ

土 やっぱりそう

夢 きれいな鼻毛

土 どうするこれから

わたしはなにがしたかったんだろう。

夢 あの人死んだかな

土 死んでないよチューブ繋がってたんだから

夢 どうして

土 え

夢 どうしてチューブを繋げたの

土 そんなこと私に聞かないで

夢 雨子 自分のことでしょう

土 雨子 自分のことでしょう

夢 どうするこれから

土 一緒に会いに行こうか

夢 二人で行くの

土 え

わたしはなにがしたかったんだろう。

土 じゃあじゃんけんする

夢 え

土 絶対に会いたいでしょ

夢 じゃんけんに負けたら

土 絶対に会わない

夢 そうだね

土 私ちよき出す

夢 えひどい

土 私ちよき

夢 なんてそんなひどいこと言えるの

土 私絶対に会いたい

夢 公平にしようよこういうの



土 私ちよき出す

夢 じゃあじゃんけんしない

土 えなんで

夢 キスして

土 え ブス

夢 もうどっちかしかないよ キスカ 包丁で刺すか

土 え 私は刺すよ

夢 刺せないよ

土 なんですよ

夢 お腹の子 どっちにいますかと思う

土 え

夢 雨子は、土雨子は、もう一人の自分が、月の地面と同じ  
顔色になったのを見た。

五場

土 ちよつと待って一緒に言お

夢 うん

夢・土 じゃんけんぼち

夢 雨子はぐーを出した。土雨子はちよきを出した。二人は  
自分の指先を見つめた。

土 いってらっしゃい

夢 うん

土 大丈夫よ

夢 うん

風野 どうしたの帰ってきて 準備終わったの

花 全然

風野 もう出発するんじゃないの

花 明後日に行くよ

風野 そう

花 風野はベランダが好きだね

風野 この家のものは大体好きだよ

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だけどベランダは好き 風野がいるから

風野 よかったね俺がいて

花 お月さま行ってくるよ

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全って本当

風野 怖い

花 静かだよ

風野 え

花 風野

風野 あ 人妻

花 まだ人妻じゃない

夢 ちよき出すでしょ

土 ちよき出すよ

夢 じゃんけん

花　すぐく静か

風野　うん

花　風野もしんとしているの　分かるでしょう

風野　うん

花　私に結婚してほしくないでしょう

風野　してほしいよ

花　そうなの

風野　俺はこの静かな感じ好きなんだ

花　風野

風野　うん

花　「お母さん」って言ってみて

風野　え

花　最期に「お母さん」て　言ってみて

月のホテル。風野は地下の一室にいた。その部屋の真ん中には冷たくなった花雨子が寝かされていた。風野の傍には村が立っていた。

風野　本当に死んでる

村　お顔きれいだね

風野　お月さんだときれいなままにしやすいんだって

村　ばい菌とかいなさそうだもんね

風野　でも脳みそはどろどろになっちゃってるんだよ

村　そうなの

風野　死んだら死んでも脳みそだけは元に戻らないんだよ

村　脳みそどろどろになったらどんな気持ちになるんだろ

う

風野　はかりしれないね

村　風野くん

風野　うん

村　どうして死んじやったの

風野　幸せになったからだよ

村　幸せになったんなら生きてこうってなるんじゃない

風野　幸せになったんなら　いつまでこれが続くんだろう

って不安になるんだよ

村　うん

風野　だから幸せのてっぺんの時に凍らせるんだよ

村　じゃあなんで結婚式の前に死んだの

風野　うん

村　うん

風野　なんでかな

村　私正直に言ってい

風野　うん

村　私たちもおんなじことするの

風野　おんなじことって

村　私と風野くんが結婚したら私殺されるの

風野　羊人間になるんだよ

村　私はならないよ

風野　誰だって死んだら羊人間になるんだよ

村　誰もならないよ

風野　村ちゃん

村　うん

風野　少し静かにしよう

風野は花雨子の顔を見て、

風野　俺この静かな感じが好きなんだよ

村も花雨子の顔を見て、ささやき声にして、

村　ごめん

風野　ごめんね

村　私地球帰るね

風野　え

村　風野くんと地球帰るね

風野 え 今すぐってこと

村 風野ちゃんと地球帰る

風野 え風野って俺

村 風野ちゃんと地球帰る

風野 え風野って俺だよ

村 私風野ちゃんと帰るね

風野 俺今うんここにいますよ

村 風野ちゃんと帰る

風野 俺も帰るよ

村 私風野ちゃんと地球帰るよちゃんと

風野 俺も帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るって

村 風野くん

風野 帰るって

村 風野くん

風野 帰るって

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 ごめん 分かんないです

村 うん

風野 だから今晩は最高のえっちさせてください

村 いいよ

風野 無重力えっち

村 あるよ重力

村、待ってる。風野、村に顔を近づける。気づいて、花雨子の目を塞ぐ。顔を近づける。ふと、地下室の入口に誰かが立っている。頭にアンテナがある。カゼノである。

カゼノ すみません

風野 はい

カゼノ どの部屋にも誰もいなくて

風野 このホテル今日は僕たちだけなんですよ

カゼノ さびしいところです

風野 お月さんの上ですから

カゼノ そうですか

風野 あの 頭に何か刺さってますよ

カゼノ はい 羊人間ですから

風野 え

カゼノ はい 「カゼノ」といいます

風野 え

カゼノ はい

風野 あれ

村 風野くん

風野 村ちゃん 目が痛い

村 え

風野 あてて え 村ちゃん目が痛い

村 え 砂が入ったんじゃない

風野 砂が入ったのかな

村 ホテル病院行こうよ

風野 え 痛い痛い

村 ホテル病院行こホテル病院

村は風野に寄り添って地下室を出た。カゼノはじっと見ていた。

月のホテル。雨子と明の部屋。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。明が部屋に入ると、ベッドに夢雨子が座っていた。

明 え

夢 うん

明 雨子

夢 うん

明 え 本当に雨子

夢 そうだよ

明 なんか 顔変わったね

夢 羊人間になったから

明 え 立ってみて

夢 雨子、立つ。

明 動いた

夢 動くよここにいるんだから

明 え 本当に雨子

夢 雨子じゃなかったらどうする

明 え

夢 私 顔も身長も声も指先も脳みそも全部お月さまの砂で出来てるよ

明 うん

夢 今までなにが雨子だったの

明 分かんないけど僕のこと今 すごいなんか 雨子っぽく見ているよ

夢 ただいまって

明 うん

夢 地球で私が家に帰って「ただいま」って言ってたでしょ

明 うん

夢 雨子の深い思い出の中で私が「ただいま」って言うとき明くんは「うん」を2018回と「おかえり」を603回と「遅かったね」を89回と「早かったね」を20回とその他をちょうど300回返してくれたの

明 え

夢 今驚いたでしょう

明 え うん

夢 ねえこっち来て

明は動かない。

夢 私のこと触って

明は動かない。

夢 やっぱり私化け物

明 そうじゃないよ

夢 じゃあこっち来て

明 なんか僕 裏切られたように感じてて いや 裏切られたとかそんなんじゃないって分かてるんだけれど裏切られたとかじゃないんだけれど あの 僕 裏切られたよね

夢 裏切ってないよ

明 じゃあ僕はなんで生きてるの

夢 え

明 なんで僕のチューブだけ繋がってたの 僕あの時僕のチューブも外したよね 雨子のが壊れて繋がらなくなつて予行練習じゃなくなつて

夢 え 私もよく覚えてないあの時のこと

明 挨拶の回数は覚えてるのに

夢 私は明くんがチューブ外してくれて嬉しかった

明 じゃあなんで僕が気がついた時にチューブが繋がってたの

夢 ああ

明 うん

夢 覚えてない

明 じゃあ本当の雨子に聞いてきてほしい

夢 え 私雨子だよ

明 ねえ 雨子は今どこにいるの

夢 え 明くん 喧嘩しないでおう

明 喧嘩してないよ

夢 怖い顔やめてよ

明 僕ちよっくら死んでくるよ

夢 なんでもちよっくら死なないで

明 ちよっくら死んで本当の雨子を探してくるよ

夢 ねえ触って

明 触ってどうするの

夢 触ったら私のこと本当だって分かるよ

明 僕がびびってふるえてたからそれで雨子は僕のチューブ繋ぎなおしてくれたんだもんね

夢 違うよ触ってお願い

明 こんな情けない奴と一緒に死にたくなかったんだよね

夢 そんなことない私一緒に死にたかった

明 僕ちよっくら死んでくるよ

夢 私も分かんないんだよ気づいたらホテルの裏にいて全部本当にそこにあるものなのかどうか だから触って

ほしい

明 触って本当だったら雨子は本当になっちゃうんだよね

夢 え どういうこと

明 僕もよく分かんないからちよっくら死んでくるよ

夢 じゃあ私アンテナちぎるね

明 え なんて

夢 (アンテナを引っ張りながら) 明くん死に行くのならわたしたたたい えこれすごく痛い ごめん明くん

明 えやめなよ

夢 でもアンテナやめて明くんは

明 ちよっくら死んでくるよ

夢 (アンテナを引っ張り) わたしたたたいわたたたいわたたたいわたたたいわたたたい

明 なになにがしたいんだよ

夢 出て行かないで

明 雨子にしか

夢 触って

明は夢雨子をじっと見た。

夢 触るだけでいいの

明 雨子にしか

夢 私この部屋で待ってる

明は部屋を出る。自動ドアがぶいん、ぶしゅう。夢雨子はもう一度、ドアの開く音を待った。

七場

月のホテル。形の部屋。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。形が戻ると、形のベッドの上に土雨子が座っていた。形と目があった。二人は背筋を張った。

形 雨子

土 お兄ちゃん

形 え 雨子

土 私雨子に見える

形 分からないけれど

土 今名前を呼んだ

形 だって 分からないけれど

土 私いつの間にかお月さまのホテルの前に立ってたの どうしていいか分からなくて それでお兄ちゃんの部屋に来たの

形　なんで僕の部屋なんだよ

土　お礼がしたくなったのよ　お兄ちゃん

形　うん

土　お父さんのように　私をここまで育ててくれてありがとう  
　　お月さままで連れてきてくれてありがとう

形　お前　本当にこれでよかったのか

土　私今幸せよ

形　嘘を言っているね

土　なんで

形　お前が今本当に幸せを感じてるならお前は絶対に明く  
　　んの部屋に行くよ　でも僕の部屋を選んだということは  
　　幸せじゃない何かがこの部屋にあるんだよ

土　どういうこと

形　なんで結婚式をせずに死んだんだよ

土　あれは事故よ

形　ちいちゃい頃から今まで僕はずっとずっとお前の幸せ  
　　ばかりを求めてきたんだよ　お月さんに来るのだった  
　　このお月さんのホテルを貸し切りにするのだったお前も  
　　のすごいお金がかかっているんだよ　いやお金の話じゃ  
　　ないことは分かっているんだよ　でも敢えてだよだって  
　　僕らはもう実家も土地も全部売っぱらっちゃって兄妹の  
　　思い出一つ引っ提げてここまでやって来たんだよ　それ  
　　をお前は台無しにしたんだよ

土　そうよ

形　そうよ　そうよってなんだい

土　お兄ちゃん　私二人いるの

形　んえ

土　羊人間の雨子が二人になっちゃったのよ

形　え　どういうこと

土　明くんともう一人　私　一緒に死んでほしい人がいた  
　　のかもしれない

形　え

土　私　もうすぐお月さまの裏側へ行くの

形　どうして

土　羊人間になれば分かるわ　地球って眩しいのよ

形　あんな　眩しいことないよあんな小さいの　眩しいこ  
　　とないよあんな丸いの　小さいの

土　小さくて　もう私の帰れない場所

形　雨子はなんで僕の部屋に来た

土　聞きたい

形　聞きたい

土　じゃんけんで負けたの

形　え

土　雨子は形の左腕を持ち、腕から手の甲、指先を少しずつ  
　　撫でていく。

土　雨子　お兄ちゃんの左手だけ好き　右手が風野で左手

　　が雨子　ねえ覚えてる　夏の日　三人で手を繋いだまま  
　　畳の上に横になって　お父さんのエアコンを最強にして  
　　寝るの　誰にも怒られない夕暮れの青

形　あの

土　うん

形　ごめんよ

土　雨子は立って、部屋を出ていく。自動ドアが、ぶいん、  
　　ぷしゅう。形は身体を硬直させたままドアをじっと見てい  
　　る。

八場

風野は思い出の中で、自宅のベランダから月を見ていた。  
　　花雨子が来た。

花　風野

風野　あ　人妻

花　まだ人妻じゃない

風野　明さんと喧嘩したの

花　なんで

風野 こっちに帰ってくるなんて珍しいじゃん

花 風野はベランダが好きだね

風野 この家のものは大体好きだよ

花 私はほとんど嫌い

風野 うん

花 でもベランダにいる風野は好き

風野 浮気しに来たの

花 私 風野とだけ秘密を作りたいのよ

風野 明さんと作りなよ

花 明くんとは赤ちゃんが出来たからいいの

風野 え

花 そうよ

風野 え 赤ちゃんいるの

花 そうよ

風野 え お月さん行けないじゃん

花 行くよ

風野 行くの

花 結婚して 羊人間になるの私たち

風野 明さんは何て言ってるの

花 言っていない

風野 え 赤ちゃんのこと

花 言っていないよ

風野 そりゃ そうか

花 秘密はここからだね

風野 え まだ秘密じゃなかったの

花 私この子にとびきりの名前を考えたの

風野 うん

花 カゼノ

風野 え

花 カゼノっていうんだよ

風野 なんて

花 この名前 本当は私がほしかったの たまらなくほしかったんだよ お母さんがカゼノって呼ぶ時に眩しいくらいに嬉しそうにしている 私嫉妬してたの

風野 雨姉ちゃん

花 なに

風野 お腹の子 誰の子なの

花 明くん

風野 明さんの子だったらお月さんへ行かないと思うよ雨姉ちゃんは

花 行くよ

風野 行かないよ

花 行くよ どこまでも

月のホテル。風野と村の部屋。風野はベッドに横になっている。両方の目に一つずつ、大きな絆創膏を貼っている。村はその傍らに付き添っている。カゼノも近くで見守っている。

風野 カゼノ

カゼノ はい

風野 羊人間になれたんだね

カゼノ はい

風野 言葉はどこで覚えたの

カゼノ お腹の中で母と父の思い出遺伝子を繰り返し見ました

風野 羊人間はすごいね

カゼノ 違いますよ 地球人間は皆お腹の中で思い出遺伝子を繰り返し見るんです だけれど地球に生まれた衝撃で全部真っ白になるんです 俺は生まれなかったからなんか真っ白になれなくて

風野 そう

カゼノ あの 握手をしてくれませんか

風野 うん

風野は手を差し出す。カゼノは恐る恐るそれに触れる。

カゼノ　すごい　べとべとしてる

風野　失礼だね

カゼノ　え　べとべとしてたら失礼なんですか

風野　べとべとしてる人に向かってべとべとしてるって言うのが失礼

カゼノ　そうか　大変ですね

風野　なにが

カゼノ　なんか　生きるのって　だって　絶対べとべとするのに　生きてたら

風野　カゼノはさらさらしてるね

カゼノ　俺はお月さまの砂で出来ていますから

風野から返事はない。

カゼノ　風野さん

村　え　風野くん

村は動揺し、風野に寄る。風野からかすかに寝息が聞こえる。

カゼノ　眠ったんですよ

村　あの

カゼノ　はい

村　あの　ごめんなさいその手

カゼノ　え

村　その手を　あの

カゼノ　え　あ

カゼノは風野の手を放す。村と風野から少し離れながら、

カゼノ　ごめんなさい

村　いえ

カゼノ　あの　大丈夫ですよ

村　え

カゼノ　羊人間だからって何か特別な力があるわけじゃないですから

村　はい

カゼノ　地球人間とおんなじですから

村　あの

カゼノ　はい

村　どうして「カゼノ」なの

カゼノ　あの　大丈夫ですよ

村　なにが

カゼノ　俺　風野さんと同じカゼノって名前ですけどこの

人の生まれ変わりじゃないですから

村　はい

カゼノ　だから本当に　俺別に風野さんに何かしようとか思っただけですから

村　違うの

カゼノ　え

村　私はあなたの名前がどうして「カゼノ」なのか聞いたんだよ

カゼノ　それは　分からないです

村　どうして

カゼノ　お母さんがつけてくれた名前ですから

村　お父さんは

カゼノ　え

村　お父さんはあなたが「カゼノ」だと知ってるの

カゼノ　お父さんは

村　うん

カゼノ　知らないです

村　どうして

カゼノ　え

村　赤ちゃんのお名前って　二人で決めるものじゃない

カゼノ　俺分かりません

村　あなたのお父さんは誰なの



カゼノ 俺分かりません

村 思い出遣伝子を見て知っているんでしょう

カゼノ 俺分かりません赤ちゃんですから

村 ねえ本当のことを言つてよ私だけ置いてけぼりなの分かるでしょう

カゼノ ごめんなさい

村 あなたが謝ることじゃないの赤ちゃんなんだから

カゼノ ごめんなさい

村 私はあなたに赤ちゃんらしく純粋な言葉を口にしなさいって言っているの

カゼノ 俺だつて置いてけぼりなんです

村 置いてけぼりなのは私だけです

カゼノ 俺も置いてけぼりに入れてください

村 私だけです置いてけぼりなのは

カゼノ 地球人間て怖い人間ですね

村 なにを

カゼノ だつて俺はただ名前が「カゼノ」というだけなんです

村 おかしいよ怖いのはだつて羊人間の方でしょう なの羊人間て

カゼノ 地球人間の死んだ後の形です

村 なんなのあなた達の兄弟 人間て死んだらね

カゼノ はい

村 死んだらそれで終わりなの

カゼノ それは違います

村 なんなのあなた達の兄弟

カゼノ それで終わりなら俺はなんなんです

村 私は地球へ帰る

カゼノ はい

村 風野くんときちんと地球へ帰る

カゼノ そうしてください

村 お願い

カゼノ え

村 風野くんのこときちんと地球帰してあげて

カゼノ 俺 盗んでないです風野さんのこと

村 風野くんの目を元に戻して

カゼノ 月の砂が目に入つたんだつてホテルのお医者も言つてたじゃないですか

村 風野くんのことちよつとずつ盗んでかないで

カゼノ あの 誤解していませんか羊人間のこと

村 だつて生まれたかったよね

カゼノ え

村 お月さまじゃなくて地球で

カゼノ あの

村 生まれたかったよね

カゼノ 村さん

村 なに

カゼノ 俺も俺のこと何がしたいのか分かってないんです  
だつて俺 赤ちゃんですよ なんかなんでこんななんか  
成長しきつた感じで羊人間になつちやつたのか俺も分  
かないんですけどなんか納得は出来なそうですよね ねえ  
納得出来ないですよ村さん

村 はい多分

カゼノ え多分てなんだろう

村 だつて私そんなにいきなり成長したことないから

風野 むにゃむにゃ カゼノ カゼノくん カゼノ カゼ  
ノちゃん カゼノちゃん

カゼノと村、目をあわせる。

村 うん

カゼノ あの

村 うん

カゼノ 俺 村さんと一緒に会いに行きたい人がいるん  
です

村 私と

カゼノ はい 来てくれませんか一緒に

村 うん

村は、風野をベッドに寝かせてあげて、

村 いいよ

カゼノ はい

村 いいよね 風野くん

九場

月のホテル。地下室のドアが開いて、土雨子が入ってきた。手には白い花を持っている。寝かされている花雨子の傍らに来て、花の茎を死んだ自分のおでこに突き立てた。もし今、死んだ自分が目を開けたら、私はどこへ行くんだろう。

明 雨子

明が後ろに立っていた。土雨子は明と顔を合わせていいのかもしれない。寝台の縁を右手の指でなぞって、そろそろと、明から隠れるように、寝台の奥の方でうずくまった。自分が何をしているのか分からなかった。いつも明に言われていた「子どもっぽい自分」をとにかく心掛けてみた。

土 なに

明 え

明から見て、横たわっている花雨子の向こう側に、羊人間のアンテナだけがぴょこ顔を出していた。

土 なに突然こんな地下室まで来て

明 雨子

土 雨子って私の名前

明 うん

土 ここで横になって死んでる私の名前

明 そうだよ

土 なんで死んでるのに名前を呼んだの

明 生き返るかなと思って

土 生き返らないよ 脳みそどろどろだよ

明 じゃあなんで喋ってるの

土 驚かせようと思って

明 なんで驚かせたいの

土 明くんの間抜けな声が好きだったから

明 好きだったんならなんで僕も死なせてくれなかったの

土 私が死にたくなかったからよ

明 え 本当に

土 分かんないけどもう死んじゃったし

明 アンテナ見えてるよ

土 雨子、アンテナを曲げて明から隠す。

明 雨子死にたくなかったの

土 分かんない

明 なんでお月さんなんか来たんだよ

土 明くんが僕も死ぬって言うからよ

明 雨子が死にたいって言ったからじゃん

土 嘘だよ

明 え 雨子

土 死にたくないけど死ななきゃいけない時があるのよ女には

明 男にはないんかよ

土 男にはないのよ間抜けだから

明 雨子

明は花雨子の身体ごしに土雨子を覗きこむ。土雨子は床に四つん這いになって、明に顔を見せないようにする。

明 羊人間で分身するの

土 なんでもこんなとこに来たの

明 雨子の顔が見たくなって

土 あなたの部屋にも来たでしょう

明 来たけどうまく話せなかったよ

土 下手くそでも一緒にいなきやだめじゃない

明 雨子

土 うん

明 死にたくなかったの

土 お願い 帰って

明 僕の部屋今知らない雨子がいるんだよ

土 地球に帰って

明 地球

土 地球

明 地球のどこ

土 地球の日本

明 地球の日本のどこ

土 地球の日本の福井県

明 地球の日本の福井県のどこ

土 地球の日本の福井県鯖江市のあなたの家

明 雨子の家だろ

土 私あなたが帰ってきててもいいようにお米炊いた

明 お月さんと一緒に死ぬって言ったのに

土 お茶も沸かしちゃった

明 お茶もご飯も腐ってるだろ

土 私もうお月さま来る前から狂っちゃってたのようしていいか分かんないしもうチケットもとっちゃったしもう行くしかなかったのよ私

明 じゃあなんで雨子だけ死んだんだよ

土 いきなりこんなところに来ちゃだめじゃない私あなたにだけは会わないでおこうってそれだけしかなかったのに それだけだったのに お月さまにはホテルが一つだけしなくなっちゃって 小っちゃいホテル 小っちゃいホテルだし明くんは間抜けだし もう死んじゃおうよ あ明くんは死なないで私だけ死んで あ私死んじやったから明くんは死なないで私だけ死んじやってもう私だけ死んじやった

土 雨子は自分の死体に顔をうずめる。こんなにぐりぐりと額を押し当てても花雨子は動かないんだと明が不思議に思ったその時、「朧月夜」が聴こえてきた。花雨子の動かない口から。明は花雨子を見る。

なのはなばたけに いりひうすれ  
みわたすやまのは かすみふかし  
はるかぜそよふく そらをみれば  
ゆうづきかかりて においあわし

十場

月のホテル。雨子と明の部屋。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅ。形が入ってくる。夢雨子がベッドに座っている。

形 雨子

夢 うん

形 雨子だね

夢 そうだよ

形 歌がきこえてきたよ

夢 どんな歌

形 お前が幼稚園で覚えてきたやつ

夢 そう

形 はりきってお母さんの前で歌ってたやつ

夢 そう

形 お月さんと歌うんだってずっと練習してたやつ

夢 昔の話だよ

形 お母さんとお父さんのことを思いだしていたんだろう

夢 私が歌ってたの

形 よく響くんだよ静かだから

夢 お月さまだから

形 一人で部屋にいと死んでるのか生きてるのか分かんなくなるんだよ 窓の外は星と砂ばっかりだしお前も死んでしまったし 誰も会いに来てくれる人なんていないし

夢 うそ

形 え

夢 私が来たでしょう

形 あ

夢 もう一人の私

形 うん

夢 逃げて来たんでしよう私から

形 あいつがね あいつが出て行ったんだよわけの分からないことを言ってる

夢 私

形 あいつが お前が お前が出て行ったんだよ

夢 せっかくお兄ちゃんの部屋に行ったのに

形 お前はここの部屋にいる方がいいよ

夢 そう

形 明くんの部屋にいる方がすっきりするよ

夢 じゃあお兄ちゃんがここの部屋に来ちゃだめじゃない

形 一人で一人なんだよ

夢 いいじゃない私のことなんか

形 せっかくお前明くんの部屋にいるのに

夢 この部屋のことは放っておいて

形 お母さんとお父さんを思い出していたんだろう 歌っている時のお前はいつも一人だよ

夢 お兄ちゃん

形 うん

夢 私歌ってないよ

形 え

夢 誰も歌なんて歌ってないよ

形 聞こえてきたよ僕の部屋まで

夢 だったら狂ったんだよ

形 え

夢 お月さまのホテルが静かなのはね お月さまの砂が全部の音を吸っちゃうからなんだよ

形 でも聞こえてきたよ

夢 だからお兄ちゃんのうずまきが自分だけでうたつたのを聞いたんだよ

形 僕のうずまきってなんだい

夢 お兄ちゃんはどう誰にも会えないってことだよ

形 ずるいよ

夢 なにがよ

形 ずるいよ ひどいよ お前ら二人してさ ずるいよ ひどいよ 雨子も 風野も ずるいよ ひどいよ

夢 せっかく私たち二人に分かれてあげたのに

形 ずるいよお前も風野も

夢 風野のなにがずるいのよ

形 歌ってないんならもういいよ

形は部屋を出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。夢雨子、部屋の入口をじっと見つめている。形は廊下をつかつかと進む。花雨子の歌が聞こえてくる。形は戻る。雨子と明の部屋に入ってくる。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

形 ほら歌っているよ

夢 歌ってないよ

形 廊下に出たら分かるよお前歌ってるよ

夢 歌ってないよ

形 この部屋で一人ぼっちで歌っているよ

夢 歌ってないよ

形 なんて嘘をつくんだよ

夢 お兄ちゃん

形 嘘だらけだよお前

夢 私

形 歌ってないんならもういいよ

形は部屋を出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。夢雨子、部屋の入口をじっと見つめている。やがて形が入ってくる。

自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

形 やっぱり歌っているよ

夢 歌っていないよ

形 廊下に出てみるよお前廊下に出たら聞こえるよお前がこの部屋で歌っているのが

夢雨子、廊下に出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。形は一人部屋に残される。しんとした部屋。形は部屋を出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

形 だからお前廊下に出て聞こえるわけないだろうお前部屋にいないのにお前部屋の中にいないと意味がないだろう

夢雨子、部屋に入る。自動ドアが、ぶいん。形も一緒に部屋に入る。ぶしゅう。

形 ああ 水が 水がほしい

夢 お兄ちゃんお願い

形 うん

夢 私のアンテナをちぎって

形 ちぎる

夢 おもいきり引つ張ってくれればいいから

形 アンテナって え これ この頭のやつ

夢 そうだよ

形 こんなの ちぎれてどうなるんだよ

夢 お兄ちゃんが一人にならなくなるよ

形 雨子 おい お前 雨子

夢 はい

夢雨子、形の左手を取り、自分のアンテナにそえる。

夢 左手でちぎって

形 僕は お前の幸せだけを願ってきたんだよ

夢 おめでどう 私

形 どうしたらお前はうたわなくてすんだ

夢 お願いお兄ちゃん おめでどう 私

形は、夢雨子のアンテナを一思いにちぎる。夢雨子、「さらさらしやりさらし」と身体が欠けていつて、砂になって床に散らばる。形はそれを見て、夢雨子のアンテナを握りしめて、部屋を出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

雨の日。地球。明と花雨子が川を見ている。ひとつだけ傘をさして。

花 ねえ

明 うん

花 雨の日の魚ってどこにいますかと思う

明 え 川の 石の裏だよ

花 石の裏

明 うみぶどうの裏とか

花 うみぶどうは海だよ

明 静かなところにいるんだよ

花 静かなところ

明 流れのとまったところ

花 それは世界の裏側ね

明 え

花 雨の日の魚は世界の裏側にいるのよ 人間が見ていないのいいことに

明 そう

花 明くん

明 うん

十一場

花・夢 私もそうするね

明 うん

花・土 私も世界の裏側に行くね

明 だったら雨子は足が遅いから

花 うん

明 僕が先に世界の裏側で待つてるよ

花 そう

明 羊人間になれた途端にダッシュして 世界の裏側で待つてるよ

花・夢 待ってて

明 雨子は足が遅いから

花・土 待っててね

花 きつと静かよ

夢・土 静かなところ

花 雨が降っても音の無い

夢・土 静かなところよ

花 音の無い

## 十二場

月のホテル。土雨子が、雨子と明の部屋の前に来た。自動

ドアが、ぶいん。部屋には誰もいない。月の砂が床一面に散らばっている。土雨子、それを見つめる。ぷしゅう。自動ドアが、ぶいん、ぷしゅう。自動ドアが、ぶいん、ぷしゅう。自動ドアが、ぶいん、ぷしゅう。ぶいん、ぷしゅう。ぶいん、ぷしゅう。ぶいん、ぷしゅう。ぶいん、ぷしゅう。土雨子、部屋には入らず、廊下を彷徨う。静かなホテル。でもひとつの音が頭から離れない。それは、夢雨子の声で、うたを呟いている。地球で一所懸命に練習して、お母さんとお父さんに聞かせたうた。やがて、風野と村の部屋に着く。自動ドアが、ぶいん、ぷしゅう。土雨子、部屋の中に入る。

土 風野

風野は目を覚ます、夢を見ている、分からなくなる。

風野 雨姉ちゃん

土 久しぶり

風野 羊人間になったの

土 なにその絆創膏

風野 月の砂が目に入ったんだよ

土 嘘だよ さびしくて泣いてるとこ見られたくないんだよ  
しょう

風野 村ちゃんは

土 誰もいないよ 風野と私の二人きり

風野 明さんと喧嘩したんだろ

土 してないよ

風野 なんで明さん生きてるんだよ

土 分かんない

風野 俺知ってたよこうなるって

土 え

風野 明さんだけ生きてて 喧嘩して どうしていいか分かんなくなつて俺んとこ来るんだよ 雨姉ちゃん頭悪いから

土 そうだね

自動ドアが、ぶいん、ぷしゅう。砂の音の夢雨子が入ってくる。

風野 村ちゃん

夢 風だよ

風野 お月さんに風はないよ

土 あるのよ 風野なんにも知らないで

風野 雨姉ちゃん

夢・土 なに

風野 うん

土 なに

風野 いや

夢 風野

風野 え

土 風野

風野 なに

夢 風野

風野 なんだって

夢・土 風野

風野 あの

土 うん

風野 結婚式を挙げたらいいよ

土 え

風野 俺らのことなんか考えないで 明さんと一緒に

土 なんてそんなこと言うの

風野 雨姉ちゃんが迷子だからだよ

土 私迷子になってるの

風野 そうだよだから俺に会いに来たんだよ

土 ベランダと一緒に

風野 ベランダと一緒にだよ

土 私明くんを殺していいの

風野 皆そのためにお月さんまで来たんだよ

土 明くんと結婚式していいの

風野 ここまで来てわがママを引っ込めなくていいんだよ

夢 でも明くん誰と結婚するの

風野 え

夢 風野

風野 え ということ

夢 風野

風野 雨姉ちゃんだよ明さんが結婚するのは

夢 雨

風野 え

夢 雨が降ってるよ

風野 お月さんに雨は降らないよ

夢 降ってるよ

風野は雨が降って、月のホテルにあたっている音を聞く。

夢 私がばらばらの羊人間だとしてね風野

風野 うん

夢 明くんはばらばらのどこと結婚したらいいの

夢 雨子が出ていく。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

風野 雨姉ちゃん

土 風野

風野 え

土 この静かな感じ好き

風野 え

土 私のいなくなった静かな感じが好きなんでしょう

風野 うん

土 私は大嫌い

風野 うん

土 でもなんにも見えなくなった風野は好き

風野 うん

土 私と一緒に羊人間になりたい

風野はこたえない。

土 またお父さんのエアコン最強にして三人で寝そべろうよ

土 雨子は、風野の右手を握る。握って、風野をホテルの秘密の通路から外へ連れ出す。風野は雨にうたれた。

月のホテル。玄関口。形は玄関扉の薄い膜ごしに外を眺めている。人差し指を薄い膜に押し当てる。人差し指は「ぶにぶに、ぶにぶに」と薄い膜の弾力で押し戻される。少し力を込めて人差し指を押し当てる。すると、「ぶにぶに、ずぶり」と、人差し指は薄い膜の向こうへ抜けた。形は人差し指を薄い膜から抜いて、見つめた。そこに、カゼノと村が来た。

村 あ

形 はい

村 こんなところで薄い膜つついてなにされてるんです

形 こんなところっていうのは

村 え

形 こんなところっていうのは

村 ここ ホテルの玄関ですから

形 ああ

村 お外に出raitたいのかなと思って

形 いや 雨が降ってるんじゃないかって

村 え

形 僕の部屋だけ窓が小さいんですよ 外の景色があんまり見れなくて

村 雨が降るんですか

形 もちろん勘違いですよそんなお月さんで雨だなんて

村 はい

形 でも気になったんです 気になって窓を覗き込んだって小さいんですよ窓のやつ だから少しでも景色の見れるところへと思って そんな村さん

村 はい

形 お外に出ようとしたって村さん チューブもつけないでほんのつま先だけでもお外に出てごらん下さいよ たちまち警報が鳴ってホテルの怖い人に怒られちゃいますよ本当に危ない場所なんだからここは

村 警報鳴らなかつたですよ

形 え

村 お兄さん人差し指だけ出しても

形 なんてこんな小さな玄関なんだろう

村 薄い膜も節約しないといけませんから

形 人間の全てをこめたお月さんのホテルですよ

村 はい

形 なんで玄関も窓もこんなせこましいんだろう

村 薄い膜も節約しないといけませんから

形 あなた

カゼノ え

形 頭に何かささってますよ

カゼノ はい 羊人間ですから

形 そう どこに行こうとしてたの

カゼノ え

形 外はお月さんだよ 干からびるよ

カゼノ あのお父さんを探していて

形 お父さん

村 この子 雨子さんのお腹の中にいたんです

形 そうか

カゼノ はい

形 大きくなったね

カゼノ はい

形 あ

カゼノ はい

形 大きくなったね あ

カゼノ はい

形 君 お前 お前

カゼノ はい

形 大きくなったね



カゼノ はい

形 大きくなったね

カゼノ はい

形 抱きかかえたいのにお前僕は

カゼノ はい

形 抱きかかえたいんだよお前僕は

カゼノ すみません

形 抱きかかえたいんだよ

カゼノ すみません成長してしまつて お父さん

形 うん

カゼノ 俺 お父さんに言いたいことがあるんです

形は、夢雨子のアンテナをカゼノに渡す。

形 これを

カゼノ え

形 お前のお父さんが 明くんが どこかにいるから  
れを渡してほしいんだ

カゼノ これは

形 うん

カゼノ はい

形 行つといいで

カゼノ はい さようなら

カゼノはホテルの中へ引き返す。村は残される。

形 うん

村 今 何を渡したんですか

形 あの子のお母さんの形見かな

村 カゼノといいます

形 え

村 あの子の名前です

形 雨子がつけそうな名前だな

村 カゼノちゃんは誰の子なんです

形 明くんと雨子の子ですよ

村 カゼノちゃん「お父さんに会いたい」つて言つて真つ先  
にお兄さんの部屋に行つたんです

形 部屋を間違えたんですよ

村 カゼノちゃん お父さんにきちんと伝えたいことがあ  
つたんだと思うんです

形 村さん

村 はい

形 行っちゃいましたよカゼノが 追いかけてなくちゃカ  
ゼノは赤ちゃんでホテルのことをなんにも知らないんだ  
から

村 はい

形 かぜのをお願いします

村 あ

形 うん

村 風野くん言つてました お月さんのホテルを貸し切り  
にするのは 誰が生きてても誰が死んでもいいつて契約を  
交わしたということなんですよね

形 そうですよ

村 警報が鳴らないつてそういうことですよ

形は薄い膜越しに外の景色を眺めている。

村 すみません

村は、カゼノを追つていく。残された形。

形 すみません ありがとう さようなら お月さんに来  
てからありがとうは聞いたかな 聞いてないかな あり  
がとうだけ まだ聞いてないな すみません ありがと  
う さようなら

形は、玄関口から足を一步踏み出し、月のホテルの外へ出  
る。月の真空中で音が鳴っている。鼓膜がおかしくなったの  
かもしれない。やつぱり警報が鳴ったのかもしれない。形

にはその音が、地球のどこかの音に聞こえた。ために形は、家のドアをひとつあけてみた。がちやり。ぎい。ばたん。花雨子が待っていた。

#### 十四場

花雨子が笑っている。

花 おかえりなさい

形 なんだ 帰ってきてたのか

花 うん

形 勝手に人の部屋入るなよ

花 懐かしくなつて

形 小学生じゃないんだから

花 よくお父さんの日記この部屋で読んだね

形 お前だけだったよそんなの読むのは

花 私赤ちゃん生まれるよ

形 え

花 まだ形が出来たばかりだけれど でも私分かるよ

形 医者には見せたのか

花 お兄ちゃん 赤ちゃんが生まれたら私海へ行くの 明くんが好きなの 春でも夏でも秋でも冬でも 私と明くんこの子で砂浜を歩くの お昼間でも夕暮れでも夜中でも お兄ちゃん 私分かるの この子もきつと海を気に入るの だって明くんの子なんだから 晴れていれば地球の海へ行くの 雨の日はお月さまの海へ行くの 私たち砂浜を歩けばたちまち両手がいっぱい塞がるの 砂浜って面白いきらきらしたガラスだかそこかしこに落ちているの この子はきれいなものを見つけるのも上手なの だって明くんの子なんだから 私のことを見つけてくれたように すぐに面白いきらきらしたもので両手をいっぱいにしてお母さんに見せてくれるの ねえ お兄ちゃん お母さんほら きらきらがきらきらしてる よって ねえ お母さん きれいだよって

形の部屋で、花雨子が笑っている。やわらかい午後三時の窓明かり。ふと床に目をやると、風野がだらしなく寝転がっている。どんな遊びをしたのか、両目に絆創膏をつけている。剥がす時に、また泣きわめくのが目に見えている。

風野 むにやむにや

形 なんだよ おい

風野は寝ている。

形 聞いてたのか おい 風野

いつの間にか傍らに、土雨子がいる。

土 風野

形 こんなお月さんの地面で寝てたら風邪ひくぞ 風野だけにね

風野は寝ている。絶対に聞いてるはずである。形は風野の尻をおもいきりはたく。土雨子は相変わらずいい音を出すなあと、そこだけは形に感心している。そんな三人の兄弟の部屋を、花雨子が見つめている。花雨子はこの家を出た。明と最期をむかえるために。

#### 十五場

月のホテル。地下室。花雨子の死体のそばに明がいる。そこに、カゼノと村が来た。

村 あ

明 はい

村 すみません

明 どうしました

村 はい あの

カゼノ お母さんに会いに来ました

村 あ

明 お母さん

村 この子 雨子さんのお腹の中にいたんです

明 雨子の

カゼノ あの

明 うん

カゼノ これを

明 え

カゼノは、夢雨子のアンテナを明に渡す。

明 これ

カゼノ 明さんの部屋でお母さんが渡してくれました

明 そう

カゼノ お父さんに 俺のお父さんに渡してほしいって

明 うん

カゼノ あの

明 うん

カゼノ お父さん

明 いいよ

カゼノ え

明 本当は分かっているんだろう

カゼノ はい

明 お前もしんどいね

カゼノ え

明 生まれたばかりだね

カゼノ はい

明 いきなりごちゃ混ぜの世界に放り出されてね

カゼノ 俺そんなものかと思ってました 生まれたばかりだから

明 もうちょっときらきらしてて楽しいよ世界は

カゼノ 海のことですか

明 そうだね 海はきらきらしてるね

カゼノ お母さんが言ってたんです 明さんは海が好きだって

明 動物園も好きだよ 雨の日の川を歩くのもきれいだよ

カゼノ お母さんも言っていました いつか俺を連れてってくれるって

明はポケットから口紅を出す。カゼノに渡す。

カゼノ え

明 お母さんの口紅 ひいてあげようと思って

カゼノ はい

カゼノは口紅を花雨子の唇にひこうとする。

カゼノ あの どういうふうにやればいいんですかこういうの

明 え 村さん

村 え

明 こういうのって 力加減とかどういふ感じなの

村 え なんか 唇にそつとあてて ぐいです

明 ぐいな

村 はい仕事行く前とかは

明 死んでるんだけど

村 あ はい じゃあ きれいだねって気持ちでぐいです

明 気持ちでいいの

村 むしろ気持ちです

明 気持ちだって

カゼノ あ はい

カゼノは口紅を、ちょん、とだけひく。

明 あなた

カゼノ はい

明 地球 行ってみる

カゼノ え

明 村さんと一緒に行ってみたらいいよ

カゼノ いいんですか

明 お月さんの港で待っておいで

カゼノ でもその前にお母さんに聞いてみないと

明 こういうのはお母さんに内緒で行くんだよ

カゼノ そうなんですか

明 男の子の冒険にお母さんは反対するように出来てるんだよ

カゼノ はい

明 見つかる前に行つていい

カゼノ あのお父さん

明 え

カゼノ お父さんです お父さん

明 うん

カゼノ 行ってきます

明 うん

カゼノ、出ていく。

明 羊人間て

村 はい

明 なんなんですかね

村 そうですね

明 村さん

村 はい

明 あの子のことお願いします

村 明さんは

明 はい

村 地球に帰らないんですか

十六場

明の持っている夢雨子のアンテナが、少しふるえた。

夢 明くん

明 え

夢 私のこと もっと強く握ってみて

明 雨子

夢 もつとぎゅって握ってみて

明 雨子

夢 私はここだよ

明 どこだよ

夢 あなたの手のひらの中

明 雨子

夢 うん

明 アンテナだけになったの

夢 ねえ

明 うん

夢 もつと強く握ってみて

明 こう

明はアンテナを強く握る。

夢 げえ

明 え大丈夫

夢 すぐく気持ちいいよ

明 そうなの

夢 だって私の全部あなた一瞬で抱きしめてくれるんだよ

明 抱きしめてるといとか握りしめているんだよ

夢 私 明くんにいてもらえてよかった

明 ずるいよ雨子

夢 ずるいよ私は

明 僕も死にたいよ

夢 あなたが死んだら誰が私を抱きしめてくれるのよ

明 僕はどうしたらいいんだよ

夢・花 明くん

明 うん

夢 どうして生きるか死ぬしか出来ないの

明 どうしてかな

夢 ねえ それなら私を探してみて

花 私川の底にいるわ

夢 川の底の削れた石の裏がわよ

花 うみぶどうの透明な向こうがわよ

明 そこは雨が降ってるね

花 雨が降っていて静かなところよ

夢 音の無い

花 静かなところで待ってるね

夢・土 私を探してみて

花 夏の日

夢 秋の日

花・土 冬の日

夢 春の日

夢・花・土 花の日

土 雪の日

夢・花 海の日

夢・土 雨の日

花 雨が降ればお月さまの海の中

夢・土 どうして生きるしか出来ないの

花 雨がやんだらお月さまが雲の上

夢・土 どうして死ぬしか出来ないの

花 私を探せばいいだけなのよ

夢・土 川の底の石の裏がわ

花 うみぶどうの透明な向こうがわ

夢・土 音の無い

花 ここは世界の裏がわね

土 音の無い

夢 貝殻の穴の向こうがわ

土 音の無い

花 魚のお腹の黒のなか

夢 音の無い

土 風の広がるみみうずまきの

夢・花 音の無い

夢 歌をうたった私の家の

土・花 音の無い

夢・土 雨の沈んだ砂浜の

夢 音の無い

花 ねえ 誰が死んだの

夢 雨子のアンテナがふわふわ浮いた。

夢 明くん 本当の雨子に会いたい

明 うん

夢 それなら お月さまの裏側へ行こう

明 裏側

夢 そうだよ

明 どれくらいかかるかな

夢 半年

明 携帯薄い膜発生装置もつかな

夢 簡単だよ

明 え

夢 薄い膜がなくなるまで歩いたらいいよ そいで 薄い膜なくなったら なくなったらまで歩けるとこまで 歩いたらいいよ

明 そうだね

夢 砂浜みたいに

明 砂浜みたいに

夢 砂浜みたいに

明 砂浜みたいに

村 風野くん 風野くん

月のホテル。村は風野を探している。

村 風野くん 風野くん 風野くん 風野くん

十八場

月面。風野と土雨子のそばへ、カゼノがやって来る。

十七場

月面。風野が仰向けに倒れている。しゃがんで、風野の顔を覗き込むように佇んでいる土雨子。

カゼノ 風野さん

土 ねえ どっちだと思う

カゼノ え

土 これって寝てるのかな

カゼノ 分かんないです

土 カゼノ

カゼノ はい

土 どうしてお腹の中から出てきちゃったの

カゼノ え

土 私 あなたと一緒に お月さまの裏がわへ行きたかったのよ

カゼノ 俺 お月さまの港へ行くんです

土 そう

カゼノ 俺 地球で海を見るんです

土 カゼノ

カゼノ はい

風野 雨姉ちゃん

土 うん

風野 俺死んだ

土 まだ死んでないよ 薄い膜がもうすぐ剥がれるところだよ

風野 そう

土 あんまり喋ると苦しいよ

風野 村ちゃんは

土 うん

風野 地球へ帰してあげてね

土 分かったよ

風野は喋らなくなる。

村 あれ 風野くん 風野くん

風野と村の部屋。自動ドアが、ぶいん、ぷしゅう。村が入ると、誰もいない。

こんな狭い部屋。探すまでもない。途方に暮れる。

村 風野くん 地球へ帰ろう カゼノちゃんと一緒に 風野くん 風野くん

村は部屋を出る。廊下は明るく、果てしなく伸びている。

土 ちゃんと準備運動をしてから泳いでね

カゼノ はい

土 いってらっしゃい

カゼノ お母さん

土 うん

カゼノ お父さんみたく 冒険を許してくれてありがとう  
俺をお月さままで連れてきてくれてありがとう

カゼノは、月の港へ駆けていく。土雨子はその後ろ姿をじつと見る。そして、風野の横に寝転がる。

土 カゼノ

形 雨子

土雨子、はっとする。満天の星空から聴こえた気がした。

形 お月さんて本当に砂しかないんだね

土 そうよ

形 でも風が気持ちいいね

土 知らなかったの

形 薄い膜のせいで気づかなかったんだなずっと

土 覚えてる

形 うん

土 お父さんのエアコン

形 うん

土 夏の日の 三人で手を繋いだまま畳の上に横になって  
誰にも怒られない夕暮れの青

形 左手が雨子で右手が風野で

土 お兄ちゃん

形 うん

土 地球がきれいよ

月のホテル。風野と村の部屋。村は自動ドアを開ける。ぶいん、ぶしゅう。暗がりに、風野がいる。風野の頭にアンテナがついている。

風野 村ちゃん

村 うん

風野 あの

村 うん

風野 絆創膏もう取っていいのかな

村 もう痛くない

風野 多分

村 多分てなに

風野は、村の声がきれいだと思う。

おわり

公演の記録

2020年8月14日(金)～16日(日)

「晴れがわ」

金沢21世紀美術館 シアター21

上演についてはコトリ会議までご連絡ください。

[kotorikaigi@gmail.com](mailto:kotorikaigi@gmail.com)